AMAZING DISCOVARY

古代エジプトのインホテップと聖書のヨセフは同一人物か

―メリー・ネル・ワイアット―

古代エジプトのインホテップと聖書のヨセフは同一人物

メリー・ネル・ワイアット（１９９４年４月）

砂川 満 訳

目次

Contents

はじめに …… 2
7年の飢饉についての碑文 …… 6
インホテップ、イム（私は有る）と言われる神の声 …… 9
医者としてのインホテップ …… 10
インホテップの知恵 …… 12
ジョセールの統治期間の後期に任命されたインホテップ …… 18
インホテップ、最初のピラミッドの建立者 …… 19
穀物貯蔵庫 …… 20
インホテップの墓を探索 …… 26
エジプト、歴史と聖書（ロン・ワイアット） …… 29
預言の中のエジプト …… 30
古代エジプトにおける合板〔ベニヤ板〕 …… 36

はじめに

聖書の記述を裏付ける証拠が、多くの歴史学者や考古学者らによって退けられてきたという事実には、驚きを禁じ得ない。世界中に存在する洪水伝説など、聖書の実話から神話や伝説が作られたにもかかわらず、不信者らは、聖書がこれらの神話に影響されたと言うのである。

これらの神話は、サタンが真実を歪めて作らせたものである。そしてついに、神話や伝説に貫かれている思想は、人間が神の存在と聖書の真実性を完全に否定するよう意図されている。奇妙なことに、あらゆる既知の文明には何らかの宗教が密接に関わっていたという事実は、誰も意に介さないようである。もしも神が存在しないとしたら、宗教と神々についての概念はどこから来たのであろう？

神が存在するという真実は、洪水後に分散したノアの子孫らによって語り伝えられていったのである。そして実際に、神話や伝説ではなく、聖書の記述を裏付ける証拠が次から次へと発見されているわけである。但し、これらの証拠に対して目をつむる人たちがいるのも事実である。

これらの偉大な証拠のいくつかは、古代エジプトにおけるヨセフの存在と結びつく。出エジプトの数年後にファラオとして統治したホレムヘブの記念碑には、ヨセフがヤコブの家族をエジプトに呼び寄せた出来事を裏付ける記述がある。それには、いにしえからの慣習に従い、エジプトでの家畜の放牧許可

を願い出た、北からの遊牧民のことが記されている。また、ベルシェにおけるテフティヘテプの墓にも、シリアから来てエジプトに入国する家畜の絵が描かれており、「かつてお前たちはシリアの砂を踏んだ。今やここエジプトにおいて、緑の牧場で養われる」との碑文が添えてある。

より詳細にわたってヨセフの物語と近似する様々な証拠が、この記事の焦点である。

だがまず、舞台設定をしなくてはならない。聖書の記録に基づいた私たちの年代学によると、大洪水は紀元前２３４８年頃に起こった。それから約４２７年後の紀元前１９２１年頃に、アブラハムがハランを去った。

それから間もなくして（どれほど間もなくかは不明）、カナンにおける飢饉の故に、アブラハムとサラはエジプトへ行った。アブラハムのエジプト滞在に関する聖書の記述は極めて簡潔であるが（創世記12ノ10～20）、アブラハムはサラを自分の妹だと言ってファラオを欺いた。彼女は彼の異母兄妹であったので、これは全くの偽りではなかったが、彼女は彼の妻でもあった。彼女が美しかったために、ファラオは彼女を宮殿に召し抱えた（創世記12ノ12～15）。そのために、王はアブラハムに多額の報酬を支払ったが（16節）、神が介入なさり、何らかの災難がファラオに降りかかった（17節）。災いの原因を知ったファラオは、アブラハムを呼び寄せ、なぜサラについて嘘をついたのかと詰問した（18，19節）。それから彼は、

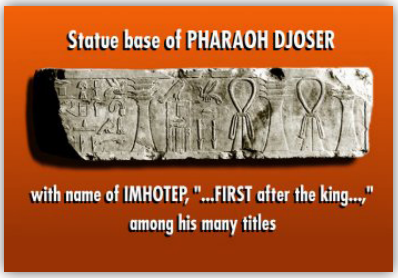
アブラハムとその一行をエジプト国外まで護送するよう部下に命じる(20節)。

当時のエジプトは、すでに富裕な国であった。そしてちょうどその頃、アブラハムも家畜や金銀などの財産を得て、豊かになっていった(創世記13ノ1、2)。またその頃に、エジプト人が外国人と飲み食いすることを禁じる法律が制定された証拠も見つかっている(創世記46ノ34)。ヨセフスは、エジプト人に算術と天文学の知識を伝えた第一人者に、アブラハムの名を挙げている。それは真実かもしれない。

アブラハムがエジプトを訪れたのは、第一王朝の初期頃であったと私たちは考える。ヨセフが、ファラオに次ぐエジプト第二の地位に上げられたのは、それから約200年後のことであった。そして第三王朝の時代に、インホテップと呼ばれる、古代史における最も驚くべき人物が表舞台に登場する。

長年の間、エジプト学者たちは、インホテップが実在する人物であったことを疑ってきた。彼が在世したとされる時代から1000年以上もたってから書かれた記述に載っている、彼の功績とされる様々な偉業を信じるには、かえって無理があったのである。時折インホテップは、古代エジプトの「レオナルド・ダ・ヴィンチ」と呼ばれるが、実際はダ・ヴィンチ以上の人物であった。ダ・ヴィンチは天才であるとの評判を勝ち得たが、インホテップは神として崇められるまで高められた。

エジプトの多くの神々の中で、かつて人間であった者はわずかしかいない。インホテップはその一人である。マネトーは次のように書いた。「彼〔第三王朝のジョセール〕の治世に、イモウテス〔インホテップ〕は在世した。彼はその医療技術の故に、エジプト人の間でアスレピウス〔ギリシアの医学神〕との評判を得、石材建築の発明者でもあった」。この記述のために、インホテップという人物の実在性はかえって疑われたのである。ところが1926年に、その疑問は完全に払拭された。インホテップは実在の人物であった。サッカラの階段式ピラミッドの発掘が行われたとき、ファラオ・ジョセールの像の断片が見つかった。下部の碑文には、ジョセールの名に連なって、次のように記されていた。「インホテップ、下エジプトの首相、王に次ぐ支配者、大宮殿の行政官、世襲の君主、ヘリオポリスの大祭司、建築家、彫刻家、石つぼの製作者・・・」



ジョセール王の断片の碑文に
インホテップの名が連なる

これは、ヨセフの特長とも合致しないだろうか？聖書は、ファラオに次ぐ彼の地位について明確に述べている。

創世記41ノ40、43、44「あなたはわたしの家を治めてください。わたしの民はみなあなたの言葉に従うでしょう。わたしはただ王の位でだけあなたにまさる。・・・自分の第二の車に彼を乗せ、『ひざまずけ』とその前に呼ばわらせ、こうして彼をエジプト全国のつかさとした。ついでパロはヨセフに言った、『わたしはパロである。あなたの許しがなければエジプト全国で、だれも手足を上げることはできない』」。

事実ヨセフは、ファラオによってあれほどの地位を与えられた最初の人物であったように思われる。そしてその事は、エジプトで発見された証拠によって確認されている。もしもこの人、インホテップがヨセフであったとしたら、聖書の記述と結びつく何らかの証拠があるはずである。

7年の飢饉についての碑文

ヨセフの主な地位は総理大臣であり、インホテップは、古代エジプトにおいてあれほどの広範な権威を誇った第一人者であったように思われる。エジプト史を通じて、非常に多くの大臣の記録があるが、インホテップとヨセフを結びつける最初の証拠は、ナイル川にある最初の大滝のすぐ下にあるシヒエル島の大岩に彫られた碑文である。

この碑文は、ジョセールが治世の第18年に書いた文書の写しであると言われている。この写しは、そこに記されている事件から１０００年以上もたった後に作成された。その写しには、7年の凶作と7年の豊作のことが記されている。この碑文の一部を見て、聖書の記述と比べてみよう。そこに記されている事件の１０００年後に書かれたものであることを覚えられたい。

1．それは、ファラオの大きな悩みでもって始まっている。

：「私は玉座にあって悩んでいた」。

創世記41：8「朝になって、パロは心が騒ぎ、・・・」。

7年の飢饉についての碑文

2．碑文の中で、ファラオは凶作について悩み、ナイル川の神は誰かとインホテップに尋ねている。旱魃についてその神に伺いを立てるためであった。

：「・・・私は宮内官であり、プタハの子であったインホテップに、『ナイルの生地はどこか?そこの神は誰か?どの神か?』と尋ねた」。インホテップはこう答える：「私には、鳥網を統轄するお方の指導が必要です」と。

創世記41ノ16「ヨセフはパロに答えて言った、『いいえ、わたしではありません。神がパロに平安をお告げになりましょう』」。エジプトの文言において、インホテップは「プタハの子」と呼ばれていた。プタハは、他の神々を含むすべてのものの創造主として知られていたエジプトの神であった。

3．碑文の中で、インホテップはナイルの神についてファラオに答え、その神がどこに住んでいるか語っている。聖書の中で、ヨセフはパロの夢の解説をしている。碑文の次の場面で、王が眠っているときに、ナイル神クーヌムが夢の中で自分自身を現し、ナイルの水で地が潤され、7年の干ばつ

の後に7年の豊作がやってくると約束している。順序こそ違うが、これは7年の豊作と7年の凶作を予告したパロの夢を反映している。

4. 碑文を読み進めると、ナイル神クーヌムへのジョセールの約束が記されている。それは、「神の家」の祭司らを除き、すべての民衆に十分の一の税を課すとの約束であった。

創世記47ノ26「ヨセフはエジプトの田地について、収穫の五分の一をパロに納めることをおきてとしたが、それは今日に及んでいる。ただし祭司の田地だけはパロのものとならなかった」。

ここに、ファラオ・ジョセールがその大臣インホテップに、7年の大凶作という難局を乗り切る手助けをして欲しいと嘆願している物語が記されている。インホテップは、答えは彼の一存によらないから、神に伺いを立てねばならないと伝える。それからファラオは、事件を予告している夢を見る。7年の凶作に続いて7年の豊作がやってくるというわけだが、聖書の記述とは順序が逆になっている。ファラオは、祭司を除くすべての国民に10％の税を課す。聖書の記述によると、五分の一すなわち20％の税が課せられており、やはり祭司らは免除されている。聖書の記述を構成するすべての要素が、この碑文に出てくる。但し、物語そのものは、自分たちの宗教的信条に合うようにエジプト化されている。

この碑文は、紀元前2世紀頃、クーヌムの祭司たちによって、ある土地をめぐる彼らの特権を正当化

するために書かれたと考えられている。碑文の一部には、ファラオがある土地と税収を神に捧げたことが記されている。しかし、この物語を記してある碑文は、これだけではない。フィラエ島には似たような碑文があり、それにはイシスの祭司らが、ジョセールが同じ目的で彼らの神に同様の捧げ物をしたとの証言が載っている。洪水伝説がほとんどすべての古代文化に見出され、それぞれの宗教や目的に合うよう歪曲されているように、ここでは、祭司たちと彼らの宗教目的に合うよう歪められつつも、ヨセフの物語が見出されるわけである。

インホテップ、イム（私は有る）と言われる神の声

古代エジプトにおいて、インホテップという名前は、「イムの声（または口）」と訳される。但し、エジプトにおいて、「イム」と呼ばれる神の記録はない。が、私たちは「わたしは有る」と言われる神を知っている。

出エジプト3ノ14「神はモーセに言われた、『わたしは、有って有る者』。また言われた、『イスラエルの人々にこう言いなさい。「わたしは有る」というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と」。

ヨハネ8ノ58「イエスは彼らに言われた、『よくよくあなたがたに言っておく。アブラハムの生まれ

る前からわたしは、有る〔欽定訳〕のである』」。

神はモーセに、「私は有る」という方が彼を遣わしたとパロに告げるよう言われた。なぜなら、「私は有る」というのは、エジプト人がヨセフの神として知っていた神の名前であったからである。「イム（Ｉｍ）」が「私は有る（Ｉ ＡＭ）」であった可能性はないだろうか？

ファラオによってヨセフに与えられた「ザフナテ・パネア」（創世記41ノ45）という名は、ある時には、「神は生きておられる；神は語られる」と訳される。「ホテップ」というエジプト語の意味ははっきりと分かっておらず、インホテップ（「私は有る」と言われる神の声）が、ヨセフに付けられた名前「神は生きておられる；神は語られる」と同源である可能性は極めて高い。

医者としてのインホテップ

インホテップは、その歴史的記録が残っている人の中で、最も古い医者であるが、ヨセフが医者であったという聖書の記録はない。但し、一箇所だけ、手掛かりとなる聖句がある。創世記50ノ2である。

「そしてヨセフは彼のしもべである医者たちに、父に薬を塗ることを命じたので、医者たちはイスラエルに薬を塗った」。

ここに、ヨセフの配下にあった医者たちのことが書かれている。

しかし後に、インホテップの名が「いやしの神」として確立されたとき、彼がいやしを行った方法は、ヨセフに直接結びつくものであった。古代ギリシアの文書には、メンフィスにあった聖地のことが記されている。そこには、インホテップのいやしを求めて、あらゆるところから人々がやってきたそうである。人々は彼に祈り、捧げ物をしてからこの聖地で一夜を過ごした。古代エジプト版ルルドの泉である。

寝ている間に、神であるインホテップが人々の夢に現れて、彼らをいやしたと言われている。ヨセフと夢の間には関連があっただろうか？

創世記37ノ8「すると兄弟たちは彼に向かって、『あなたはほんとうにわたしたちの王になるのか。あなたは実際わたしたちを治めるのか』と言って、彼の夢とその言葉のゆえにますます彼を憎んだ」。

これは、彼と彼の兄たちが収穫物の束を結えていたという夢であった。彼らの束が立ち上がって、ヨセフの束を拝んだ夢であり、この夢も、兄弟たちがヨセフをねたんだ原因となった。

創世記37ノ20「・・・さあ、彼を殺して穴に投げ入れ、悪い獣が彼を食ったと言おう。そして彼の夢がどうなるか見よう」。

インホテップの知恵

聖書の記述は、ヨセフの知恵についても語っている。

創世記41ノ39「またパロはヨセフに言った、『神がこれを皆あなたに示された。あなたのようにさとく賢い者はない』」。

インホテップ

インホテップが、その知恵の故に崇められていたという証拠もある。かなり後の時代になって書かれたいくつかの碑文において、インホテップの言葉が引用されている。例えば、「インテフ王の墓歌」に、「私は、インホテップとハルデデフの言葉を聞いた・・・」というくだりがある。さらに続けて、彼らの「格言」は後世にまで語り継がれていると説明している。これまで、インホテップの業績についての記録は何も見つかっていないが、「プタホテップ」のものであるとされている賢者の格言がいくつか存在する。プタホテップは、第五王朝のファラオの大臣としてのみ知られている。但し、「プタホテップ」として知られている人は五人おり、どれも第五王朝のファラオの大臣であり、ヘリオポリスまたは「オン」の祭司であった。証拠を見

る限りでは、インホテップの後に、大臣たちの間で彼を模倣することが流行し、これら後世の大臣たちは、インホテップの功績や書き物の手柄としている。

ここで、ある想定をしてみよう。ヨセフが格言集を残したと想定してみよう。無論、神の霊感を受けて、である。彼は王から寵愛されていたので、これらの格言集は、律法学者や民衆から尊ばれるようになった。賢人としての彼の名声はエジプト中に広まり、格言集は知恵の規範となっていった。彼の大いなる知恵は、アブラハムの神から来ていたことを私たちは知っている。ヨセフは神からの知恵を周囲の人たちに伝えただろうと考える方が、自然ではないだろうか。事実、彼がそうしたことを聖書は明言している。

詩篇105ノ17「また彼らの前にひとりをつかわされた。すなわち売られて奴隷となったヨセフである」。詩編105ノ20ー22「王は人をつかわして彼を解き放ち、民のつかさは彼に自由を与えた。王はその家のつかさとしてその所有をことごとくつかさどらせ、その心のままに君たちを教えさせ、長老たちに知恵を授けさせた」。

ヨセフの死後、他の者たちが彼の格言を複製し、自分自身の手柄にした。恐らく、自分たちに好都合なように多少の色づけもしたのであろう。これらの格言が世代から世代へと語り継がれるにつれて、インホテップのものであるとされる代わりに、プタホテップすなわちエジプトの創造神「プタハの声」とされたのであろう。

何千年もの後に、「プタホテップ〔プタハの声〕の教え」の写しと称するパピルス紙がいくつか見つかっ

た。プタホテップの書き物には、事の経緯を正確に示している二つの声明がある。これらの写本の最後に、彼の死が迫り、110歳もの年齢に達し、王からは祖先たちにも勝る栄誉を受けたことが述べられている。つまり、彼ほどファラオから栄誉を授けられた人物はいないということである。そして、ヨセフが110歳で死去したことは聖書の記述から分かっている。これらの写本を検証すると、もっと面白くなってくる。

これらの格言は、ソロモンの箴言のように始まっている。つまり、息子に対する教えのように書かれており、聞く者には有益であるが、軽んじる者は災いであるとの忠告を与えている。ヨセフの知恵の源は、ソロモンの知恵の源と同一であることを覚えられたい。そして、これら二つが酷似していることは否定し難い。ソロモンは多くの箴言〔格言〕に通じていたと言われている。

列王記上4ノ30ー32「ソロモンの知恵は東の人々の知恵とエジプトのすべての知恵にまさった。彼はすべての人よりも賢く・・・その名声は周囲のすべての国々に聞こえた。彼はまた箴言三千を説いた。またその歌は一千五首あった」。

古代人たちが、「箴言〔格言〕」について無知でなかったことを、上の聖句は示している。これらすべての格言はソロモンが作ったものか、それとも祖先たちから語り継がれたものであるかは分かっていない。多くの古代文明に格言集が残っているが、ソロモンが霊感によって記し、今日、聖書に登場するものだけが、古代エジプトの「知恵集」と酷似しているのである。そして、それらはインホテップにまでさかのぼることができるのである。これは、ソロモンが古代エジプト人を模倣したわけではなく、ヨセフを含む彼の祖先たちに同様の知恵を与えられた神が、ソロモンに知恵をお与えになったということで

ある。

プタホテップの言葉と聖書をいくつか比べてみることにする。

1. 「自分の知識を誇ってはならない」。

箴言3ノ5、7「自分の知識にたよってはならない。・・・自分を見て賢いと思ってはならない。主を恐れて、悪を離れよ」。

2. 「人は明日の計画を立てるが、明日がどうなるかは知らない」。

箴言27ノ1「あすのことを誇ってはならない。一日のうちに何が起こるかを知ることができないからだ」。

3. 「友の人格を探ろうと思うならば、尋問するのではなく、彼に近づいて、二人だけで論じ合いなさい」。

箴言25ノ9「隣り人と争う〔論争する〕ことがあるならば、ただその人と争え。他人の秘密をもらしてはならない」。

4. 「もしもあなたが、一人の大物から別の人に遣わされた、信任を受けた人であるならば、あなたを遣わした人の本質を守り、彼が語ったとおりにメッセージを伝えよ」。

箴言25ノ13「忠実な使者はこれをつかわす者にとって、刈り入れの日に冷やかな雪があるようだ。

よくその主人の心を喜ばせる〔主人の魂を清涼にするからだ――欽定訳〕」。

5. 「偉人に対しては、彼にとって役に立つことを教えよ」。

箴言9：9「知恵ある者に教訓を授けよ。彼はますます知恵を得る。正しい者を教えよ。彼は学に進む」。

詩篇や伝道の書にも、類似点があるのを見つけた。

6. 「もしもすべての言葉が伝えられるならば、彼らはその地で滅びることがない」。

詩篇78ノ5ー7「主はあかしをヤコブのうちにたて、おきてをイスラエルのうちに定めて、その子孫に教うべきことをわれらの先祖たちに命じられた。これは次の代に生まれる子孫がこれを知り、みずから起こって、そのまた子孫にこれを伝え、彼らをして神に望みをおき、神のみわざを忘れず、その戒めを守らせるためである」。

7. 「貪欲という悪徳、すなわちこの治療法のない重い病を警戒せよ」。

伝道6ノ2「すなわち神は富と、財産と、誉とを人に与えて、その心に慕うものを、一つも欠けることのないようにされる。しかし神は、その人に、これを持つことを許されないで、他人がこれを持つようになる。これは空である。悪しき病である」。

8. 「もしもあなたが主人の会議に列席するほどの人物であるならば、卓越することに心を注げ。ま

くし立てるよりも沈黙する方がよい。・・・知識によって尊敬を得よ」。

伝道９ノ17「静かに聞かれる知者の言葉は、愚かな者のつかさたる者の叫びにまさる」。

9. 「知恵ある者はその知恵によって、偉大な者はその偉業によって知られる。その心と舌は一致する」。

箴言18ノ21「死と生とは舌に支配される。これを愛する者はその実を食べる」。

10. 「もしもあなたが、あなたよりも偉い人の食卓に招かれた客の一人であるなら、あなたの前に出された物を食べよ」。

箴言23ノ１－３「治める人と共に座して食事するとき、あなたの前にあるものを、よくわきまえ、あなたがもし食をたしなむ者であるならば、あなたののどに刀をあてよ。そのごちそうをむさぼり食べてはならない・・・」。

神は、エジプトのヨセフを用いて、約束の地に連れ帰される用意ができるまで、「アブラハムの子孫」が成長するための安全な避難所をエジプトに設けさせられた。そして、異教に囲まれたエジプトに滞在している間、神はご自分の真理に触れさせないまま、ご自分の民やエジプト人を放って置かれるようなことはなかった。ヨセフがエジプトの政治家たちにも教えていた事実をも、聖書は記録している。このような知恵がエジプト人たちに啓示され、ヨセフの語録集をまねた賢人らによって代々語り継がれていったわけだが、７００年以上も後に、同様の「知恵の言葉」がイスラエルの子孫によって記録され、

箴言や伝道の書、詩篇を通して、私たちに伝えられたのである。無論、ヨセフの知恵は彼自身が創作したものではなく、ソロモンやダビデ、またすべての神の民が持っていた知恵と同様、神の霊感によって与えられたものであった。

ジョセールの統治期間の後期に任命されたインホテップ

インホテップに関して、他にも聖書の記述と合致する点がいくつかある。ヨセフを抜擢したファラオ〔パロ〕の統治期間は不明であるが、夢の解き明かしをすべく、ヨセフが王の前に現れる以前、彼がすでに王として治めていたことは明らかである。また、インホテップがジョセールの統治の始めから大臣を務めてはいなかったという証拠があり、事実、ジョセールの初期の記念碑には、インホテップのことが全く言及されていない。ベイト・カラフにあるジョセールの墓を設計したのは、インホテップではなかった。恐らくその墓は、ジョセールが王となった直後に建てられたのであろう。サッカラのような前の王朝のものと似ているこの初期の墓からは、ジョセールと彼の母親の名前、それから数多くの高官たちの名前が記されたつぼが見つかっている。そこに、インホテップの名は記されておらず、当時、彼がまだ任命されていなかったことを示している。通常は、ファラオが王位に君臨するや否や、高官らを任命した。

入手可能な情報はどれも、インホテップとヨセフが同一人物である可能性を色濃く示している。例え

ば、ある碑文に載っている称号から、彼が王家の出身ではなく、一代で立身出世を果たした人物であったことが分かる。通常、ファラオの息子が大臣に任命されていた頃に、これは異例であった。

インホテップは、「ヘリオポリス」聖書的に「オンの祭司」でもあった。ヨセフの舅は、「オンの祭司」であったことが分かる。創世記41ノ45「パロはヨセフの名を、ザフナテ・パネアと呼び、オンの祭司ポテペラの娘アセナテを妻として彼に与えた。ヨセフはエジプトの国を巡った」。アセナテは結婚適齢期に達していたので、当時、彼女の父は若くても四十代であったはずである。古代エジプトにおいて、平均寿命は五十歳を少し過ぎたくらいであった。死ぬ時か、老いて病に臥した時、特に義理の息子がヨセフのようにファラオの高官であった場合は、祭司の義理の息子がその地位を継いだ。もしもヨセフが「オンの祭司」になっていたとしたら、それは神への不忠を意味したのではないだろうか？断じてそうではない。ファラオはヨセフの神の力を認めており、たとえエジプト人は偶像礼拝を続けていたにせよ、ヨセフは自らの神への信仰を隠すことなく、真の神への忠誠を保ち続けた。「オンの祭司」とは、その称号が特定の異教神の祭司であったというわけではなく、高い栄誉を受けた地位にあるか、政治的な要職に就いていたことを表していた。

インホテップ、最初のピラミッドの建立者

インホテップは、最初に建てられたピラミッドを設計し、レンガではなく石を使って建てた人物とさ

れている。古代エジプト史を調べると、数々の証拠から、エジプトが超大国となったのはジョセールの治世であったことが分かる。

結局エジプトは、飢きんの間に周囲の国々に穀物を売ることで、莫大な富を築き上げたのであった。聖書によれば、7年の豊作期間に、民衆はヨセフの賢明な指導の下、周囲のあらゆる国々に穀物を販売するための巨大な管理センターを組織したのであった。将来のファラオの墓地を含む、広大な施設が建てられたが、その主な用途は、穀物の貯蔵であった。このセンターへの入り口は一つしかなく、貯蔵庫には外付けの入り口があった。サッカラにある階段式ピラミッドについて、しばらく論じてみたい。

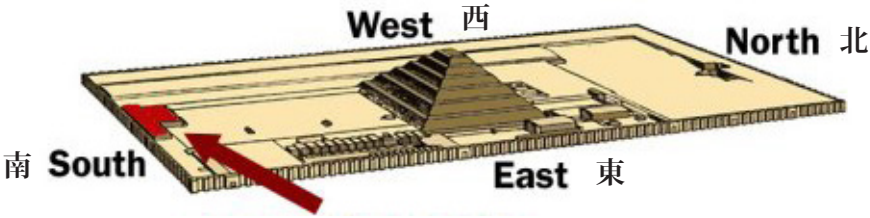
階段式ピラミッド—サッカラ

穀物貯蔵庫

最初に建てられた階段式ピラミッドの周囲にあり、その複合体である壁は、非常に美しくて精巧である。東壁の南端にある主要出入口から入ると、40本の支柱（左右20本ずつ）が並んでいる長い廊下が続いている。各支柱は、垂直の壁からなっている主壁につながっていて、支柱と支柱の間には小部屋が作

られている。この柱廊を出てまっすぐ歩くと、地中深くまで伸びている、いくつもの巨大な穴蔵に行き当たる。これらの穴蔵は非常に大きいもので、いかなる墓地や古墳よりも大きい。中心にはすべての穴蔵に通じるトンネルがあり、そのトンネルは地上の高さにまで伸びている。さらに、穴底に達する階段がある。このために、これらは墓地として建てられたものではないことが分かる。もし墓にする目的であったとしたら、これほど大きなものにする必要はなかったはずである。これらの大規模な建造物は、地上よりもかなり上まで伸びており、墓のように隠された造りにはなっていない。古代エジプト人たちは、来世のために死者を手厚く、高価な品物と一緒に葬った。彼らは墓泥棒の被害を最も恐れていた。故に、これらの巨大な穴蔵は別の目的で建てられたことが分かるのである。また、他の古代都市においてこのように大きな貯蔵庫が発見された時には、迷わず貯蔵庫と認められるのであるが、エジプトに限っては、学者らはすべての発掘物を「墓」と認定したがる傾向がある。しかし、ピラミッドの下にあるファラオの墓地には、王家が来世のために設けたおそろいの倉があり、これらの貯蔵庫では穀類や他の食物が見つかっている。

聖書には、ヨセフが役人を任命して、エジプト中の都市で穀物の収集と貯蔵の管理をさせたとの記述がある。



穀蔵エリア

階段式ピラミッドコンプレックスの復元図

創世記41ノ34ー35「パロはこうして国中に監督を置き、その七年の豊作のうちに、エジプトの国の産物の五分の一を取り、続いて来る良い年々のすべての食糧を彼らに集めさせ、穀物を食糧として、パロの手で町々にたくわえ守らせなさい」。

ヨセフは高官または総理大臣として任命される前に、ファラオにこの計画を提案している。ファラオが一人でエジプト中を駆け巡り、穀物の収集と貯蔵の監督をすることは不可能なので、ヨセフがこの計画を履行したことだろう。また、いよいよ飢饉がやって来てエジプト人たちが食糧を叫び求めたときに、彼らはヨセフのところへ行って、彼の指示に従うように言われている。つまり穀物の配給は、ヨセフが取り仕切っていたということである。

創世記41ノ55ー56「やがてエジプト全国が飢えた時、民はパロに食物を叫び求めた。そこでパロはすべてのエジプトびとに言った。『ヨセフのもとに行き、彼の言うようにせよ』。ききんが地の全面にあったので、ヨセフはすべての穀倉を開いて、エジプトびとに売った。ききんはますますエジプトの国に激しくなった」。

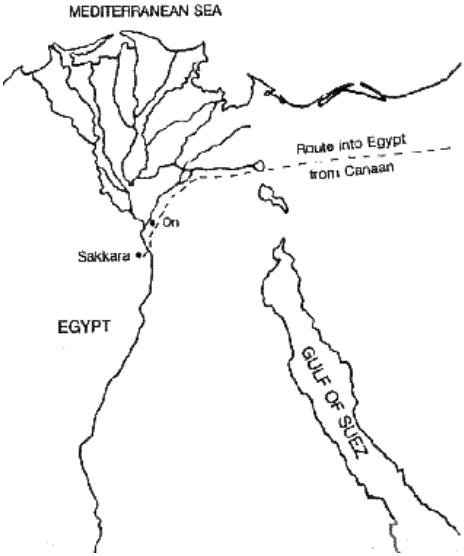
外国人が穀物を買いに来たときも、彼らは直接ヨセフのもとへ行ったようである。

創世記42ノ6「ときにヨセフは国のつかさであって、国のすべての民に穀物を売ることをしていた。

ヨセフの兄弟たちはきて、地にひれ伏し、彼を拝した」。

ヨセフの兄たちは、直接ヨセフのところにやってきた。彼らがやってきたのは、恐らくサッカラであっただろうと、私たちは考えている。このみごとな貯蔵庫の遺跡が見つかった場所である。ここでジョセールは、穀物貯蔵庫でしかあり得ない、極めて広大な11もの穴蔵を建設させたのである。

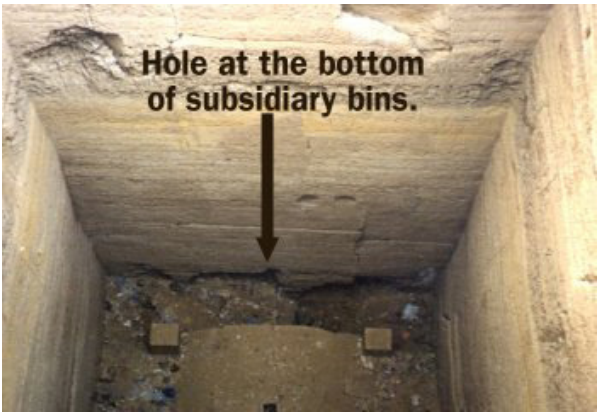
すべての都市に、その地域で集めた穀物の貯蔵所があったが、このサッカラの施設には、信じられないほど多量の穀物が蓄えられたと考えられる。実に、一つの町に必要な量をはるかに超えていた。先述したように、この施設の入口付近に、40もの小部屋があり、各部屋は一人の人間がやっと入れる程度の大きさであった。各部屋には役人がいて、穀物を買いに来た人たちから代金を受け取っていたと考えられる。恐らく、各国からの客に対応するため、様々な言語を話す人を配置したのであろう。無論、エジプト学者らは、これらの小部屋は彫像を置くために設けられたと考えるが、遺跡の中に台座は一つも見つかっていない。これは非常に重要なポイントである。なぜなら、これらの彫像は、必ず台座の上に設置されたからである。彫像は取り除かれたとしても、台座は残されたはずであ



る。

穴蔵のデザインは印象的である。全部で11あり、一つの穴蔵だけに、底まで伸びた非常に精巧な作りの階段がある。すべての穴蔵は、地下トンネルでつながっている。貯蔵物でいっぱいにされた穴蔵の上部は、材木や石で閉じられた。そして、穀物を取り出すには、一つの入り口が使われていたと考えられ、実際、穴蔵の外から中に入る入口は一つしかない。さらに、これらの穴蔵の底からは穀物が見つかっている。エジプト学者らは、死者が埋葬されたときに一緒に穀物が置かれたと説明する。が、これらの穴蔵に死者が埋葬された証拠は見つかっていない。

これは、聖書の記述と合致するだろうか?ヨセフの兄たちが、穀物を買い求めにやってきたとき、彼らはヨセフと語り、穀物の代金を支払っている。彼らが穀物を受け取ったとき、それはすでに袋に入れられていた。



補助貯蔵庫の底にある穴

創世記42ノ25ー27「そしてヨセフは人々に命じて、彼らの袋に穀物を満たし、めいめいの銀を袋に返し、道中の食料を与えさせた。ヨセフはこのように彼らにした。彼らは穀物をロバに負わせてそこを去った。そのひとりが宿で、ロバに飼葉をやるため袋をあけて見ると、袋の口に自分の銀があった」。

サッカラの施設は実に独特である。このようなものは、かつてどこにも見つかっていない。ウィリアム・ヘイズは、次のように描いている。「それ自体が都市のようなもので、単一体として計画、執行され、近くにあるムカタムの丘から持ってきた、りっぱな白い石灰岩で建てられている」（エジプトの王権、第一巻60ページ）。

エジプト学者らは、自分たちが見つけたものをすべて「王家の墓」として片付けてしまう傾向があり、この施設自体、そのように呼んでいる。しかし実際のところ、どの特徴を取っても、それはある大きな活動のセンターであったことを物語っている。またそのように解釈する方が、ヨセフの物語と調和するわけである。ヨセフの兄たちが穀物を求めにやってきたとき、彼らは、穀物の分配を監督していたヨセフと顔を合わせることになる。彼らはどこに来ていたのか？無論、穀物が貯蔵されていたところであり、そこにヨセフが居合わせたわけである。あれほどの大量の穀物を貯蔵するには、この施設に見つかっているような、巨大な貯蔵所を要したはずである。そしてそれと同じ場所に、穀物の代金を支払うための一角がもうけられたと考えるのが妥当ではないだろうか。これはビジネス〔商売〕であり、経営のセンターがあったはずである。この施設に関しては多くの事が書かれているが、ほとんどの場合、そのたぐいまれなことに触れながらも、説明がなされていない。事実、エジプト人にこれらの穴蔵について尋ねても、分からないとしか答えないであろう。

ある古代歴史学者らは、ピラミッドがかつてヨセフの穀物貯蔵庫であると信じられていた事実について書いている。そして恐らく、この言い伝えは、穀物が貯蔵されていた同じ施設内に、ヨセフが最初の

ピラミッドを設計したという事実に基づいている。いずれにしても、階段式ピラミッドの施設について専門家らがどのような解説をしようとも、状況証拠はヨセフの物語と完全に一致するのである。

そしてそれは、エジプトで最も保存状態の良い遺跡の一つであり、明らかに極めて古い構造になっている。これは、御言葉の正確性を実証する重要な証拠であるため、神ご自身が保存してくださったからに他ならない。

インホテップの墓を探索

ヨセフはエジプトで死に、遺体には防腐処理が施されてから棺に納められたことを、私たちは聖書から知ることができる。

創世記50ノ26「こうしてヨセフは百十歳で死んだ。彼らはこれに薬を塗り、棺に納めて、エジプトに置いた」。

ところが出エジプトの時、イスラエルの子らは彼の骨を携えて行った。

出エジプト13ノ19「そのときモーセはヨセフの遺骸を携えていた。ヨセフが、『神は必ずあなたがたを顧みられるであろう。そのとき、あなたがたは、わたしの遺骸を携えて、ここから上って行かなければならない』と言って、イスラエルの人々に固く誓わせたからである」。

これらの聖句から、ヨセフはエジプトで王家の墓に葬られた可能性がうかがえるが、真実は分からない。ところでインホテップの墓は、エジプト学者らにとって大きな謎となっている。とにかく彼らは、インホテップの墓がサッカラのどこかにあるはずだとの確信はあっても、それを探し当てていない。エジプト学にとってインホテップの存在は極めて重要であり、ジル・カミールの書いたサッカラのガイドブックにおいて、「インホテップの墓」は見つかっていないにもかかわらず、件名標目に列挙されている。

医者としてのインホテップを論じるにあたっては、インホテップを拝んでいやされるために、メンフィスに程近い場所にやってきた人々のことが記してあるギリシア語の文献について先述した。階段式ピラミッドのすぐ近くにインホテップの墓があることを期待して、発掘者らが探索を続けていたとき、地下トンネルの途方もない迷路を発見した。そこには、

イスラエル人の出エジプト

ミイラ化したアイビスという鳥や雄牛が（別々の通路で）数多く見つかっている。そこで見つかった碑文や硬貨は、人々がいやされるためそこにやってきていたことを示している。これこそ、ギリシア人が書き記したところの、インホテップの聖所である。

「医学の神」としてインホテップが神格化された後、彼には「アイビスの支配者」という称号が与えられた。そしてこれが、迷路とインホテップを結びつける接点になったわけである。何千ものミイラ化されたアイビスが、インホテップへのささげ物として持ち込まれ、これらのトンネル内に置かれた。後になって、これらの通路が、からの棺を納めてある埋葬室にまで伸びている穴につながっていることが分かった。また、この部屋が、壊れた石の器でいっぱいになった第二室を含む、巨大なマスタバ（古代エジプトの石やレンガで造った墳墓）に属していることも分かった。そして墓の貯納室には、ジョセールの刻印をほどこした陶製の止栓が見つかっている。これは、ジョセールの治世のある重要な人物を納めた墓であったという決定的な証拠である。壁に碑文はなく、石棺はからであった。しかし、さらに重要なのは、このマスタバが東向きではなく、北向きになっている点である。通常、ピラミッドやマスタバは東向きになっている。これはジョセールの時代に在世したある著名人の墓に違いないが、石棺はからであった。

ここにやってきたある匿名のギリシア人による碑文も発見されており、彼がどのように治癒されたかが語られている。それは夢を通しての治癒であった。様々な証拠は、ヨセフの物語という驚くべき聖書の記録が真実であったことを、雄弁に物語っている。

エジプト、歴史と聖書

ロン・ワイアット

神は何度も、人間の営みに介入されたことがあった。欽定訳聖書は、忠実にこれらの事件を記録している。そして、これらの歴史的事件についての理解を深めてくれる考古学的遺物を発見することは、いつでもわくわくさせられる経験である。聖書の歴史を裏付けるような「世俗の」記録が多く見つかっているが、これらの一部が、学者ら（進化論者／無神論者）によって意図的になきものにされたか隠されているというのは、悲しむべき事実である。これらの学者たちは、考古学的証拠を自分たちの欺瞞的な目的にそうように操作している。

聖書考古学者
ロン・ワイアット

第18王朝後期に作成され、古代エジプトの初代から18代目までのすべての王のリストが載っているトリノ・パピルスが、19世紀に神殿の遺跡の中で見つかった。サルデーニャの王はそれを注意深く保存し、トリノの学者らに翻訳を依頼した。それは完全な状態で見つかったのであるが、学者らはパピルスのほとんどを破壊し、あるいは隠してしまった。なぜならそれは、王朝が長く続いたと考えられていた従来のエジプト史を覆すことが分かったからである。損なわれたパピルスの言い訳のために、彼らは、サルデーニャの王がそれを梱包せずに送りつけてきたせいだといって彼を非難した。パレルモ石にも同様のリストが記されており、多くの学者らは石の見えない部分を引用しているが、認められていない研究者

は石のほんの断片しか見ることが許されていない。砕け具合から見て、石は明らかに最近になって意図的に壊されたのである。

B.A.R.のある主だった考古学者が、私にこう言ったことがある。「ロン、君の問題は、そこに何があるのかを知ろうとして発掘を行うことだ。まずそこに何々があると決め込んでから、見つかった物に自身の解釈をほどこせばいいんだ」。その事を妻に話したら、彼女は私の言う事を信じようとしなかった。考古学者の実態について学者本人が語ったのだから、はなはだショッキングであった。

預言の中のエジプト

聖書は預言を通して、いにしえから時の終わりに至るまでの諸国や諸都市の歴史を描いている。その一つが、イザヤ書19章である。これは、エジプトの地についての預言である。読者はこの章を読む前に、聖霊の啓発を父なる神に求められたい。この章から、聖句をいくつか見ていくことにする。

イザヤ19ノ4「わたしはエジプトびとをきびしい主人の手に渡す、荒々しい王が彼らを治めると、主、万軍の主は言われる」。

紀元後7世紀頃、エジプトはマホメットとその部下たちの支配下にあった。マホメットほど、残忍な人物として歴史の舞台に登場した人はまれである。彼は、彼の新しい神、アラーを受け入れることを拒み、

マホメット自身をアラーの唯一の預言者として受け入れることを拒んだ人たちを容赦なく殺すよう命じた。その結果、正直で誠実な人たちが殺害され、不正直な嘘つきどもが生き残ってしまった。

次の聖句は、水道管理システムの賢い利用と開発が途絶えてしまったことについて述べている。このシステムは何世紀にもわたり、農業の繁栄を生み出し、魚の干物が市場に出回るきっかけを作り、古代の世界で用いられたエジプト・パピルスの生産にも貢献してきた。

イザヤ19ノ5ー10「ナイルの水はつき、川はかれてかわく。・・・ナイルの支流はややに減ってかわき、葦とよしとは枯れはてる。小川のほとりにあるパピルス、小川のほとりにまいた物はことごとく枯れ、散らされて、うせ去る。漁夫は嘆き、すべて小川につりをたれる者は悲しみ、網を水のおもてにうつ者は衰える。練った麻で物を造る者と、白布を織る者は恥じる。また、水門と魚の池を造るすべての者は、そのために目的がくじかれる」〔一部欽定訳〕。

当時エジプトは、すべての実用的な目的から原始的な方法へと逆行し、低級な国と化してしまったからである。

イスラム勢力の衰退後、エジプトは、フランスやイギリスのようないくつかの強国の属国となった。それからソビエト連邦の影響下に陥り、イスラエルに対抗して、いくつかの無益で破壊的な戦争に参戦したが、うまくいったためしはない。

イザヤ19ノ17「ユダの地は、エジプトびとに恐れられ、ユダについて語り告げることを聞くエジプトびとはみな、万軍の主がエジプトびとにむかって定められた計りごとのゆえに恐れる」。

国連が介入しなければ、１９６７−７３年の間に、エジプトは「ユダの地」〔イスラエル〕に占領されていたであろう。

イザヤ19ノ18「その日、エジプトの地にカナンの国ことばを語り、また万軍の主に誓いを立てる五つの町があり、その中の一つは滅亡の町〔欽定訳〕ととなえられる」。

この聖句は、ヘブル語に近く、古代カナン語と密接に関係しているアラビア語が、エジプトとその中にある五つの主要都市の第一公用語となった事実を反映している。第一王朝以来エジプトの首都であったメンフィスは、イスラムが占領した時に滅び、現在のカイロの南端に当たるナイルの東岸に新たな首都エルフスタットが創建された。イスラム教徒たちはギザ・サッカラ台地を略奪し、ピラミッドや神殿から大理石や研磨石灰岩をはぎとって、自分たちのモスクや宮殿を建てるために用いた。

19節は、現代に関係している最も重要な箇所であり、私たちが御言葉の信ぴょう性を証明するために主が用意なさった、驚くべき考古学的発見にも関わっている。

イザヤ19ノ19「その日、エジプトの国の中に主をまつる一つの祭壇があり、その境に主をまつる一つの柱がある」。

ここに言及されている祭壇について論じてみよう。まず、「祭壇」という用語は、必ずしもいけにえが捧げられる何かを意味するものではない。

ヨシュア22ノ26ー28「われわれは言いました、『さあ、われわれは一つの祭壇を築こう。はん祭のためではなく、また犠牲のためでもなく、ただあなたがたと、われわれとの間、およびわれわれの後の子孫の間に、証拠とならせ・・・るためである。』・・・またわれわれは言いました、『のちの日に、われわれ、またわれわれの子孫が、もしそのようなことを言われるならば、その時、われわれは言おう、われわれの先祖が造った主の祭壇の型をごらんなさい。これははん祭のためではなく、また犠牲のためでもなく、あなたがたと、われわれとの間の証拠である』」。

ある種の記念物も祭壇と呼ばれることがあったのである。

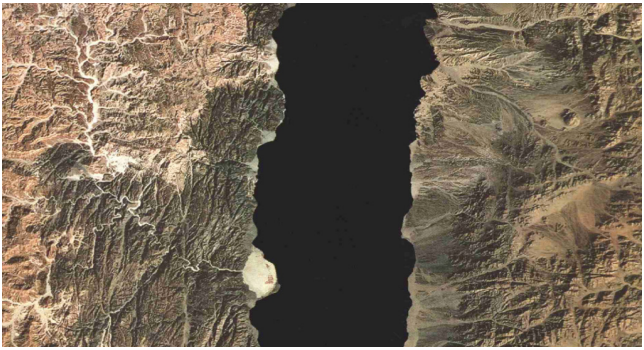
今日もサッカラには、階段式ピラミッドがある。これは、エジプト第三王朝のファラオであったジョセールの命を受け、イムホテップの設計また監督下で建てられた非常に印象的な施設の遺物である。階段は石で建設されているが、それらの石には、泥のレンガが詰められた。それから、ピラミッドの表面全体は、防風、防水効果のある研磨石灰岩の層で仕上げられた。今日の階段形ではなく、いわゆる「ピラミッド」形に似ている。

ところがイスラムの侵攻により、彼らはその悪名高いやり方を実践した。彼らはこのピラミッドの研磨石灰岩の外皮をはぎとり、自分たちのモスクや他の建物に使った。その結果、レンガの詰め物がむき出しになったわけである。

サッカラの階段ピラミッド

泥のレンガは長期間の風雨に極めて弱いため、この詰め物は、時が経つにつれて崩壊したり、宝物を探しに来た略奪者らによって穴があけられたり、投げ捨てられたりした。何も見つかることなく、これらのレンガの遺物は、19から20世紀にかけて発掘された時に運び去られてしまった。農民たちが肥料として使うために、これらのレンガを運び去ったことを記した歴史的文献もある。階段式の外観だけが残り、それは階段こそないが、メソポタミアのジグラットに似た祭壇の形が現在見られる。

ヨセフは神と極めて親密な関係にあり、天啓を受けてこの記念物を建設したと思われる。ジョセールは自らの誉のために建設を命じたのかもしれないが、彼の動機はどうであれ、それはエジプトの地におけ



イスラエル人が渡った紅海の両岸

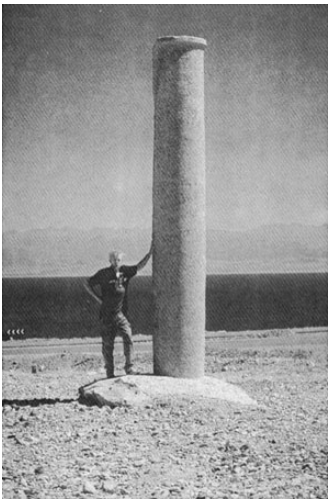
させ、アラビアのシナイ山のふもとに宮を建てさせた。これは、紀元前10世紀のことであった。私たちは、1978ー84年の間にそれらの物を見つけた。エジプト側の柱は、1978年（イスラ

ヌェイバビーチ側にある柱（左）
フェニキア式の柱（右）と類似している

る主の祭壇となり、イスラエルが成長、発展して大いなる国家となるための安全な避難所を神が備えられた地にあって、穀物貯蔵庫の位置を示す目印となったのであった。

だが、境界の柱はどこにあったのだろう？

ソロモン王は、イスラエル人が渡った紅海の両岸に碑文の刻まれた柱を立て



サウジアラビア側の柱

後年、反ユダヤであるサウジアラビア人はユダヤ人の歴史の証明となるこの柱を取り除いた。
現在、サウジアラビア側ではプラグのみ残る（左）

エルがシナイを支配していた頃）に私たちが見つけたときには海の中に落ちていた。私たちはこの事をイスラエル軍に報告し、それが見つかった場所のすぐ近くに彼らがそれをコンクリートで復元した。それはまさしく、エジプトの地の境界に立てられた。それから間もなくして、シナイはエジプトに返還されたからである。

古代エジプトにおける合板〔ベニヤ板〕

先に言及した書物の中に、古代エジプトでは合板、つまりベニヤ板が使用されていたという記述がある。「・・・棺の遺物の内側は、現代のベニヤ板に取って代わる六枚の薄い合板が使われている」。

ノアの箱舟の甲板にも、合板〔ベニヤ板〕が使われていた。私たちはその見本を持っており、事実として確認済みである。古代エジプト人たちが同様の材料を用いていたということは、ノアの子孫たちが世界中に分かれ住むようになったころ、この知識が一緒に伝えられたことを証明している。洪水後、どれほどのテクノロジーが失われたかについては、私たちの想像をはるかに超えているであろう。